

TEE ハンズオンセミナー 初級編

日時：2022年11月11日(金) 9:30～11:30

会場：ハンズオンセミナー会場(国立京都国際会館 5F Room 501)

責任者：山北 俊介(京都府立医科大学)

インストラクター：

宮田 和人(ニューハートワタナベ国際病院)

秋山 浩一(近畿大学)

セミナー概要

2013年の American Society of Echocardiography と Society of Cardiovascular Anesthesiologists のガイドラインで示された基本28断面を中心に、TEEでのスクリーニングに必要な操作法と知識をシミュレータで解説し、実際に参加者に描出してもらう。基本的な構造物や、ピットフォールの理解を深め、さらに模擬症例により実際の心臓麻酔での判断力を磨く。

事前参加登録制

参加費：5,000円

※本セミナーの参加者は本学会の参加登録が必須です。

※詳細は大会ホームページをご確認ください。

TEE ハンズオンセミナー 上級編

日時：2022年11月11日(金) 15:30～17:30

会場：ハンズオンセミナー会場(国立京都国際会館 5F Room 501)

責任者：山北 俊介(京都府立医科大学)

インストラクター：

秋山 浩一(近畿大学)

宮田 和人(ニューハートワタナベ国際病院)

セミナー概要

シミュレータを用いた模擬症例で実践での応用力を高める。様々な心疾患の病態を TEE 画像から判断し、診断できるように、シミュレータと動画を用いた体験型セミナー。某難関試験対策にもってこい。

事前参加登録制

参加費：5,000円

※本セミナーの参加者は本学会の参加登録が必須です。

※詳細は大会ホームページをご確認ください。

適切な筋弛緩モニタリング普及のためのハンズオンセミナー
(共催：フクダ電子株式会社，センチュリーメディカル株式会社，日本光電工業株式会社)

日時：2022年11月11日(金) 15：30～17：30
会場：第7会場(国立京都国際会館 5F Room 510)

座長：岩崎 寛(札幌禎心会病院)

コメンテーター：

中塚 秀輝(川崎医科大学病院麻酔科)

インストラクター：

鈴木 孝浩(日本大学板橋病院麻酔科)

小竹 良文(東邦大学医療センター大橋病院麻酔科)

高木 俊一(日本大学板橋病院麻酔科)

岩崎 肇(旭川医科大学麻酔科)

セミナー概要

これまで加速度感知型筋弛緩モニタが広く用いられてきたが，その主要機種であったTOFウォッチ[®]が販売終了となった。

本邦ではここ数年の間に後継の筋弛緩モニタが複数の会社から発売になりユーザーの選択肢が増えたと言える。

本セミナーでは生体情報モニタを必要としない単体機のうち測定様式(加速度感知型，電位感知型)より3機種(TofScan：センチュリーメディカル，テトラグラフ：フクダ電子，筋弛緩モジュール：日本光電)を中心に操作方法や臨床使用例について解説をする。

事前参加登録制

参加費：無料

※本セミナーの参加者は本学会の参加登録が必須です。

※詳細は大会ホームページをご確認ください。

周術期合併症に POCUS (Point of Care Ultrasound) を活用しよう

日時：2022年11月12日(土) 9:00～11:40

会場：ハンズオンセミナー会場(国立京都国際会館 5F Room 501)

責任者：小澤 章子(国立病院機構静岡医療センター麻酔科)
二階 哲朗(島根大学附属病院集中治療部)
中島 芳樹(浜松医科大学医学部麻酔・蘇生学講座)
野村 岳志(東京女子医科大学集中治療科)

インストラクター：

木村 哲朗(浜松医科大学医学部麻酔・蘇生学講座)
森 英明(島根大学医学部麻酔科学教室)
小林 賢輔(浜松医科大学医学部麻酔・蘇生学講座)
杉村 翔(浜松医科大学医学部麻酔・蘇生学講座)
鈴木 昭広(自治医科大学附属病院周術期センター長)
太田 淳一(島根大学附属病院集中治療部)

セミナー概要

周術期危機管理マネジメント～ Point of Care Ultrasound(POCUS) を活用しよう～

麻酔科医師には周術期におけるショックや低酸素血症など危機的状況をマネジメントする能力が要求されます。危機的状況における Point of Care Ultrasound(POCUS) は確実な診断につながり、患者予後を向上につながります。本セミナーでは周術期危機管理における POCUS 活用の獲得を目標とした基本的な内容を学べる場とします。あなたがエコーをするかしないか、それで生死が変わるかもしれません。ご参加をお待ちしています。

学習目標

1. 周術期危機的状況(ショック・低酸素血症)の原因検索に積極的に POCUS を用いる意義を理解する。
2. POCUS の診断方法・技術を獲得する。
3. 臨床現場を再現したクリニカルシナリオを通じて、どのように POCUS を臨床応用するか実践する。

共催

日本医学シミュレーション学会

ABCD sonography

レールダルメディカルジャパン株式会社

富士フィルムメディカル株式会社

対象

周術期 POCUS の獲得を目指す麻酔科医師 12 名

事前参加登録制

参加費：1,000円

※本セミナーの参加者は本学会の参加登録が必須です。

※詳細は大会ホームページをご確認ください。

麻酔科向け J-MELS ベーシックコース（麻酔科医対象）

日時：2022年11月12日(土) 12:00～16:00

会場：第7会場(国立京都国際会館 Room 510)

責任者：狩谷 伸享(兵庫医科大学麻酔科学・疼痛制御科学講座)

インストラクター：

橋井 康二(ハシイ産婦人科)

岡田 十三(千船病院産婦人科)

清川 晶(倉敷中央病院産婦人科)

狩谷 伸享(兵庫医科大学麻酔科学・疼痛制御科学講座)

中山 淳子(日本母体救命システム普及協議会事務局)

セミナー概要

産科緊急手術や予定帝王切開、無痛分娩、麻酔科医がかかわる「産科麻酔」において、もう少し産科の病態や考えを知っておきたいと思ったことはないでしょうか？

麻酔科医は分娩に携わる医師の一人として、知識を共有し、わが国の産科医療の安全性向上へとつながることを期待されています。本学会で開催する麻酔科医向けJCMELS ベーシックコースは、従来のベーシックコースから麻酔科医向けのコースにアレンジしています。受講者を麻酔科医と想定し、総合病院内で発症した麻酔科管理が必要となった周産期の症例をシナリオに入れて開催します。

「早剥で飛び込んできた超緊急帝王切開を大急ぎで麻酔したら実は…」 「妊娠高血圧腎症で緊急帝王切開になった症例で実は…」 などなど、麻酔科医が時に出会う可能性のあるシナリオをご用意しています。

学会参加の後に少しお時間をとっていただき、産科急変対応について一緒に学びましょう。秋の京都でお会いできることを楽しみにしています。「産婦人科必修 母体急変時の初期対応第3版 メディカ出版」で予習をお願いします。

事前参加登録制

参加費：10,000円

※本セミナーの参加者は本学会の参加登録が必須です。

※詳細は大会ホームページをご確認ください。

日中麻酔セミナー

11月11日(金) 15:30~18:00

第6会場(Room C-2)

座長：齊藤 洋司(島根大学医学部麻酔科学)

萬 知子(杏林大学医学部麻酔科学教室)

—演題・演者—

1. Current updates on electromyography-based neuromuscular monitoring

Asahikawa Medical University

Hajime Iwasaki

In recent years, new electromyography(EMG)-based neuromuscular monitors have been developed. Although the majority of neuromuscular monitoring is still acceleromyography(AMG), it has several precautions such as requiring free movement of the thumb, complete immobilization of the arm, appropriate preload on the thumb, and normalization of the results. I believe that EMG is the future of quantitative neuromuscular monitoring because it enables reliable measurement without the limitations of AMG. However, it is important to understand that precautions to use and interpretations of the results are different between the two devices. This lecture will review the characteristics of the AMG and the EMG ; review the clinical differences in neuromuscular recovery between several ulnar nerves innervated muscles(the adductor pollicis muscle, the abductor digiti minimi muscle, and the first dorsal interosseous muscle)during EMG monitoring ; and review the clinical differences in neuromuscular recovery between different EMG monitors.